

令和4年度病虫害発生予察予報第3号(6月)

令和4年6月7日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲(早期稲)	いもち病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ	<u>多(西)</u> 、 <u>やや多(東、中央、中西)</u> <u>多(中央)</u> 、少(東、中西、西) 平年並(県下全域) <u>多(西)</u> 、少(東、中央、中西)
水稲(普通期稲)	いもち病 イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	<u>多(県下全域)</u> やや少(県下全域) <u>多(県下全域)</u>
かんきつ類(温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ カメムシ類	平年並(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 平年並(中央)
かんきつ類(中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(東、西)</u> 、少(中央、中西) <u>多(東、中央、中西)</u> 、平年並(西) 平年並(県下全域) <u>多(東)</u> 、平年並(中央、中西、西) <u>多(東、中西、西)</u> 、平年並(中央)

※ ( )内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部  
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村  
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、  
 吾川郡いの町および高岡郡日高村  
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町  
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

## I 気象予報（高松地方気象台 6 月 2 日発表）

6 月 4 日から 7 月 3 日までの天候見通し

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

冷たい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は平年より低く、特に期間の前半はかなり低い日もあるでしょう。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みです。

向こう 1 か月の平均気温は、低い確率が 50% です。降水量は、平年並の確率が 40% です。日照時間は、平年並の確率が 40% です。

週別の気温は、1 週目は、低い確率が 80% です。2 週目は低い確率が 50% です。3～4 週目は、平年並、高い確率とも 40% です。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 か月	四国地方	気温	50	30	20
		降水量	30	40	30
		日照時間	30	40	30

< 気温経過の各階級の確率 (%) >

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	80		10 10
2 週目		50	30	20
3～4 週目		20	40	40

< 予報の対象期間 >

1 ヶ月：6 月 4 日（土）～7 月 3 日（日）

1 週目：6 月 4 日（土）～6 月 10 日（金）

2 週目：6 月 11 日（土）～6 月 17 日（金）

3～4 週目：6 月 18 日（土）～7 月 1 日（金）

## II 病虫害発生予想

### 1 早期稲の病虫害

#### 1) いもち病（葉いもち）

発生量：多（西部）、やや多（東部、中央部、中西部）

#### 根 拠

(1) 5 月の調査では県西部で発生が見られ始めている。6 月の降水量、日照時間も平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多くなる見込みで、本病の発病や病勢進展に好適な条件となると考えられる。

(2) BLASTAM（葉いもち発生予測システム）では、県内のほぼ全域で 5 月 9 日から準感染好適日が出現するようになり、5 月 30 日には四万十市中村で、31 日には高知市高知で感染好適日が確認されている（BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病虫害防除所HPを参照）。

#### 対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

## 2) ツマグロヨコバイ

**発生量**：多（中央部）、少（東部、中西部、西部）

### 根 拠

- (1) 5月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多かった。
- (2) 6月の気温は、平年よりも低いと予想されているため、発生量の増加は比較的に少ないと考えられるが、県中央部では引き続き多発生で推移すると考えられる。

### 対 策

- (1) 近年、本虫の媒介する萎縮病の発生はほとんど見られていないことから、低密度時に薬剤防除を実施する必要はない。しかし、出穂期から登熟期にかけて本虫の密度が高くなると実の充実が悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

## 3) セジロウンカ

**発生量**：平年並（県下全域）

### 根 拠

- (1) 5月の調査では、県内いずれの地区でも発生は確認されていないが、例年、6月～7月に大陸から飛来するため、梅雨時期以降は発生が増加すると予想される。

### 対 策

- (1) セジロウンカは、トビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫である。ほ場内での発生に注意し、飛来が多く、成虫数が株当たり5頭以上になったときは薬剤防除を行う。

## 4) ヒメトビウンカ

**発生量**：多（西部）、少（東部、中央部、中西部）

### 根 拠

- (1) 5月の調査では、県中央部と西部で発生が見られた。中央部は平年より少ない発生であったが、西部では平年よりも寄生株が多かった。
- (2) 6月の気温は、平年よりも低いと予想されているため、発生量の増加は比較的に少ないと考えられるが、県西部では引き続き多発生で推移すると考えられる。

### 対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないため本虫を対象にした薬剤散布の必要性は低いですが、発生が多い場合は、他の病害虫との同時防除を行う。

## 2 普通期稲の病害虫

### 1) いもち病（葉いもち）

**発生量：**多（県下全域）

#### **根 拠**

- (1) 6月の降水量、日照時間とも平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多くなる見込みで、本病の発病や病勢進展に好適な条件となると考えられる。
- (2) BLASTAM（葉いもち発生予測システム）では、5月30日に感染好適日が確認されている（BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病害虫防除所HPを参照）。

#### **対 策**

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

### 2) イネミズゾウムシ

**発生量：**やや少（県下全域）

#### **根 拠**

- (1) 5月の早期稲の巡回調査では平年よりやや少ない発生であった。6月の気温は、平年よりも低いと予想されているが、平年と同様に移植後すぐに本田への侵入が見られるものと考えられる。

#### **対 策**

- (1) 箱処理剤を施用していないほ場で発生が多くなった場合には、本田防除を行う。

### 3) スクミリングガイ

**発生量：**多（県下全域）

#### **根 拠**

- (1) 5月の早期稲の巡回調査では平年よりも発生が多く、普通期稲においても発生が多くなると考えられる。
- (2) 6月の気温は、平年よりも低いと予想されているが、発生量に及ぼす影響は比較的小さく、移植後は被害を受けやすいと考えられる。

#### **対 策**

- (1) 発生水田では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、高密度の場合は薬剤防除を行う。

### 3 カンキツ（温州ミカン）の病害虫

#### 1) そうか病

**発生量**： 平年並（中央部）

##### **根 拠**

- (1) 5月の調査では平年より少ない発生であった。6月の降水量、日照時間とも平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多くなる見込みで、発生はやや増加して平年並になると考えられる。

##### **対 策**

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

#### 2) 黒点病

**発生量**： 多（中央部）

##### **根 拠**

- (1) 5月の調査では、発病程度の高いほ場は見られなかったものの、発生面積は平年よりも多かった。
- (2) 6月の降水量、日照時間とも平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多くなる見込みで、引き続き多発生で推移すると考えられる。

##### **対 策**

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風垣の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

#### 3) ミカンハダニ

**発生量**： 多（中央部）

##### **根 拠**

- (1) 5月の調査では、寄生程度の高いほ場は見られなかったものの、発生面積は平年よりも多かった
- (2) 6月の気温は、平年よりも低いと予想されているが、発生量に及ぼす影響は比較的小さく、既発ほ場を中心に引き続き多発生で推移すると考えられる。

##### **対 策**

- (1) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

#### 4) カメムシ類

**発生量**： 平年並（中央部）

##### **根 拠**

- (1) 県中央部においては、5月のほ場調査では発生は見られず、またフェロモントラップ調査での誘殺数も平年よりも少なかったものの、予察灯では5月中旬頃から誘殺が認められている。

(2)他の地区での発生量が多いことから、今後、越冬成虫のほ場への飛来が増加する可能性がある。

**対 策**

(1)果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら防除を実施する。

#### 4 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

##### 1) そうか病

**発生量**：多（東部、西部）、少（中央部、中西部）

**根 拠**

(1)5月の調査では、県東部、西部でユズを中心に発生が見られ、発生面積は平年より多かった。中央部、中西部では発生は見られなかった。

(2)6月の降水量、日照時間も平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多くなる見込みで、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

**対 策**

(1)幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

##### 2) 黒点病

**発生量**：多（東部、中央部、中西部）、平年並（西部）

**根 拠**

(1)5月の調査では、発生面積は県東部、中央部で多く、中西部でやや多、西部では少なかった。

(2)6月の降水量、日照時間も平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多くなる見込みである。既発ほ場では発生が増加し、その他のほ場でも発生が見られ始めると考えられる。

**対 策**

(1)密植園での間伐、老木の更新、防風垣の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2)前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

##### 3) かいよう病

**発生量**：平年並（県下全域）

**根 拠**

(1)5月の調査では発生は見られなかったが、6月の降水量、日照時間も平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多くなる見込みで、常発ほ場を中心に発生が増加し、平年並の発生になると考えられる。

**対 策**

(1)銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

##### 4) ミカンハダニ

**発生量**：多（東部）、平年並（中央部、中西部、西部）

**根 拠**

- (1) 5月の調査では、県東部で平年よりも発生面積が多く、中西部で平年並、中央部と西部では少なかった。
- (2) 6月の気温は平年よりも低いと予想されているが、発生量に及ぼす影響は比較的小さく、県東部では引き続き多発生で推移すると考えられる。

**対 策**

- (1) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

**発生量**：多（東部、中西部、西部）、平年並（中央部）

**根 拠**

- (1) 5月の調査では、県東部、中西部で平年よりも発生面積が多く、中央部、西部では少なかった。
- (2) フェロモントラップへの誘殺数は、県西部で平年よりも多く、東部でやや多、中西部でやや少、中央部で少なかった。また、予察灯への誘殺は中央部、西部ともに5月中旬頃から見られた。
- (3) 今後、園地への飛来が増加すると考えられ、中央部で平年並、その他の地域では平年よりも発生が多くなると考えられる。

**対 策**

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら防除を実施する。

**農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。**

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.